

踏み跡 <My Mountains>

丹沢	大室山と加入道山	No.124
----	----------	--------

昭和44年3月22日

西丹沢（にしたん）では、大室山、加入道山、菰釣山、蛙ヶ丸の四山は名前の響きだけでも興味をそそる。特に一番奥に座し道志山塊に隣接する大室山と加入道山は、名前ばかりでなくその大きさと風格からも「何かがある山」と思わせるものがある。大室山（又の名を大群山）は、その大きさゆえに八王子方面の人の視界から富士山を奪ったため、この地域では「富士隠し」と呼ばれていたらしい。

この二つの山を歩いてみようということになり石関・阿部の二人を誘った。

新宿を午後の小田急線を出発、新松田から西丹沢行の最終バス16時30分発に乗車。悪路を1時間40分揺られ終点の西丹沢に着いたら、もう谷間の集落は真っ暗闇。

中川川に沿って30分ほどで今宵の宿である神奈川県営箒沢山の家に到着。

もう日本では数少ない「素泊まり250円」という安価な山小屋だ。釣り人に混じってストーブの横で夕食。どこの沢も堰堤と林道とで魚のすみかは少なくなっているらしい。つい最近までヤマメやイワナも住むと言われていた辺境の西丹沢も、今では「伸びゆく林道と近づく都会」に時々刻々姿を変えつつある。静かな夜だ。こんなに静かなのもあと10年は続かないだろうなと思いつつ眠りについた。



昭和44年3月23日

起床5時15分、天気は快晴、6時55分出発。こののんびりしたスタートゆえ、称して「大名旅」。林道を白石沢出合いまで歩き、それから小沢に沿った道に入り一時間半ほどで犬越路に到着。武田信玄が山犬を引きいて越えたという伝承があるが、果たして北へ向かったのか南へ向かったのかは定かでないらしい。場所を考えれば小田原（北条）との間の何かの出来事の時ということは想像できるが・・・。犬越路を出ると尾根はかなり急に高度を上げる。また高度を上げるにつれて雪もぐんぐん増えて、海拔1500mを越えて頂上が近くなる頃には脛まで潜るほどの深さ。快晴が災いして、雪は柔らかく水っぽく重い。足を取られること何度か、いい加減嫌気がさす頃に大室山山頂に到着。11時、昼食は雪の上。風もなく1587.6mの頂上はもう春の心地すらある温かさ。眺望は勿論のこと絶景、富士山を筆頭に想像した峰はすべて得られる。例年にないような春の大雪の後だけに、どの山も雪をたっぷりつけてまさか丹沢からの眺めではないのでは？と目を疑いたくなるような貫録で迫ってくる。

西へ大きく下り加入道山、この間の積雪が一番多いように感じる。やはり丹沢山塊の中でも西北端に位置していることによるのだろうか。稜線はちょうど県境線になっており、北側の道志川の谷は山梨県南都留郡、南側の中川川の谷は神奈川県足柄上郡。二つの相対する谷の景観は温暖で明るい神奈川県側と寒く乾いた山梨県側という対照的な景観。それにしても道志川の谷は深く、深くそして暗い。

加入道山から南へ15分で白石峠。白石沢を下って今朝登った中川川に沿った林道に戻り、箒沢へ。バスに乗り込む頃にはもう闇の手が間近に迫っていた。



以上